

畳文化について考えてみよう

横浜国立大学

実施学年：2～4年生

実施教科：技術・家庭科 家庭分野

生徒数：17名

実施時間：2時間



平成20年公示の中学校学習指導要領では、我が国の郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承・発展させるための教育の充実を図る事が求められている。そこで、家庭科の住領域において「畳」を取り上げ、住文化継承のための視点を育むための実践を行った。現行の中学校家庭科の教科書において「畳」に関する記述は和式や洋式の起居様式の違い、和室の作りなどが中心に記載されている。それに加え、畳がなぜ日本の住宅に取り入れられるようになったのかといった歴史的背景、また畳の持つ機能を科学的な視点から理解する事も必要である。その知識の習得に加え、日本の住宅内において和室の需要が低下していること、畳の原材料であるイ草農家も年々減少している現状を中学生がどのように捉え、文化の継承を考えるのか主体的に考えるように授業内容を工夫した。

本実践は教員養成課程を持つ大学と附属中学校との連携で行った。1時間目では、大学生が作成した畳の歴史・構造・機能に関する教材を中学生が活用し、学びを深めるよう指導を行った。2時間目では、畳に触れる活動を取り入れ、その指導は大学生が実践した。大学生にとっては畳の理解とともに効果的な教材の作成の学びとし、中学生にも畳に関する確かな知識を獲得できる機会となるよう指導を行った。



指導のねらい

- ①「祖母と同居する事になった中学生 A さん一家において、祖母の部屋を和室の洋室のどちらにするかについて家族で検討することになった。」という課題に対して、様々な角度からアプローチした資料の情報を整理する。
- ②整理した内容を、ジグソー法によりクラス内で共有する。相手に分かりやすく説明するように工夫する。
- ③様々な畳に実際に触れることで、畳で生活するイメージを掴んでもらう。
- ④家族の立場にたって、快適で安全な住まい方について考えられるようにする。
- ⑤知識と体験から得られた内容を踏まえ、自分なりの意見を持つようにする。

ねらいに対する
指導活動

①畳に関する基礎的な知識の理解（学び学習・発表）

- ・畳の日本の住宅内での歴史的な変遷、畳の構造と吸湿性・弾力性・耐久性の理由、畳の構造が日本の気候風土に適している理由などについて資料を閲覧し、内容を整理する。
- ・ジクソー法を用いた授業展開で知識の定着を目指す。

②実際に畳に触れる活動

- ・前時間に学んだ畳の歴史、手入れ・構造、住まい方、機能についてより理解を深めるために、実際に畳に触れる活動を取り入れる。
- ・4つの異なる体験を通して、畳での生活をより具体的にイメージできるようにする。

③知識と実体験を通して、自分のみならず家族の立場にたって、快適な住まい方を考える事ができるようにする。

準備品

- ・畳に関する資料
- ・色畳
- ・ゴザ
- ・プロジェクタ
- ・座卓
- ・掃除体験用（小麦粉・歯ブラシ・クレンザー・雑巾）
- ・パソコン
- ・敷き布団
- ・ビデオカメラ
- ・ミニ畳
- ・掃除機
- ・畳床の異なる畳（藁・スチレンボード・藁＋スチレンボード）

実施場所

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校教室・多目的ホール

指導の流れ

場所・授業数

概要

活動記録

対象者の反応

教室
(1 時間目)

○A 君一家の抱える課題について説明する。

【A 君一家のある日の食卓】
遠くに住んでいた祖母と同居する事になった A 君の家では、家族会議が行われていました。祖母を迎え入れる部屋は洋室がよいのか、和室がよいのか。
A 君が修学旅行で行く熊本県について調べたところ、イグサの主要産県である事やそれからつくられる畳の様々な特徴を知りました。そのため、祖母にとって和室が良いのではないかと考えていますが、他の家族(父・母・妹)も色々と考えがあるようです。それぞれの立場になって畳について調べ、祖母への提案書を作ろう。

○授業を始める前に和室がよいか、洋室がよいかについての考えを書く。



○前回の授業で実施した高齢者体験の事を思い返ししながら、祖母の立場になって考えようとする姿勢が伺えた。

○「洋室は転ぶと痛いから、柔らかい和室の方がよいのでは」

○「洋室の扉で指を挟んでケガをしそうだから、襖の和室がよさそう」

○「ベッドで生活できる洋室の方がよい」

○「和室だとダニがいそう」

○「和洋折衷の考え方もあるのでは」

○4 人 1 組で班を作り、畳の歴史・構造 / 手入れ・機能・住まい方について調べる担当を決める。

○上のテーマについての資料は事前に Teams にアップロードしておき、各自が担当箇所を閲覧して調べた結果を整理する。



○基本的には資料を参考に情報を整理していたが、さらに調べたい内容については、自らネット検索で情報を集めるなどしていた。

○1 人 2 分の時間で調べた事をグループで発表し、情報を共有する。



○自身で整理した内容をグループの他の生徒に分かりやすく説明しようとする姿勢が見られた。

○祖母の意見も聞き、家族で意見をまとめて提案書を作る事をアナウンスする。

○家族の立場で考えた事に加えて、祖母の考えを優先したいという声が聞かれた。

学習の流れ

時間・場所	概要	活動記録	対象者の反応
<p>多目的 ホール (2 時間目)</p>	<p>○前の時間に学んだ量の事について確認をする。</p> <p>○本時で実施する4つの活動内容について説明し、見通しを持たせる。</p>		
	<p>○4つの異なる体験ができるブースを設ける。各ブースの説明は大学生が担当する。</p> <p>★量の歴史のクイズブース、</p> <p>★量の汚れ（醤油汚れ・クレヨン汚れ）落とし体験ブース、</p> <p>★畳床の異なる（藁・ステレンボード・藁+ステレンボード）の量の持ち上げ・寝ころび体験ブース</p> <p>★畳上で布団を敷き、片づける体験ブース</p> <p>○4つのグループに分け、1ブースにつき4分程度体験し、その後ローテーションでブースをまわる。</p> 	  	<p>○量の汚れはすぐに拭かず、ひと手間かけることで綺麗に落ちる体験を実践する</p> <p>○藁の量は非常に重く、1人では持ち上げる事が難しい事に驚いていた。</p> <p>○ステレンボードの量は非常に軽く扱いやすいが、柔らかさや足ざわりは藁の床の方がよいという意見が多かった。</p> <p>○布団の上げ下げや敷く体験では、中学生でも大変そうな様子がうかがえた。</p>
	<p>○これまでに学んだ内容を踏まえ、祖母の部屋をどうするのか。グループで話し合い、提案をまとめる。</p>		<p>○自分だけの意見ではなく、家族として総合的に判断することに難しさを感じている場面も見られた。</p>
	<p>○和室・洋室を選ぶ理由について整理する。</p> <p>○他の班の発表を聞く。</p>		<p>○自分たちのグループとは異なる決定をした班の意見を聞き、新たな気づきをえた。</p>

教師の気づき、改善点
(担当、担当外を含めて)

- ・1時間目では祖母は和室が良いと回答していた学生が多かったが、2時間目の体験により、畳の手入りに少し手間がかかる事や床座の生活が体に負担がかかるという印象を強く持ったようで、洋室を選ぶ学生が多い結果となった。普段触れる事の少ない畳の体験をする事に重点を置いた結果であるが、次回は洋室との生活との比較を軸にした体験を行いたい。